

厚生労働科学研究費補助金（免疫・アレルギー疾患政策研究事業）  
分担研究報告書

NSAIDs 不耐症含めた薬剤アレルギーの正確な診断と対応

研究代表者 福 富 友 馬 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター  
診断・治療薬開発研究室長  
研究分担者 谷 口 正 実 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 客員研究部長  
関 谷 潔 史 国立病院機構相模原病院 アレルギー・呼吸器科 部長  
上 出 庸 介 国立病院機構相模原病院 呼吸器内科 医長  
渡 井 健 太 郎 国立病院機構相模原病院 アレルギー科 医長

研究要旨：

背景

- 1) 薬剤アレルギーは、最もありふれた疾患であるが、原因で専門施設でもその対応が難しい。
- 2) 薬剤アレルギーに関する GL や有効なマニュアルは存在しない。

目的

薬剤アレルギー症例のモデルケースを収集し（国立病院機構相模原病院自験例）、臨床現場で有益な Q and A を作成し、公表する。

研究方法：

- 1) 薬剤アレルギーに関する国内外の正確かつ詳細な資料を収集する。
- 2) 薬剤アレルギー症例のモデルケースを収集する。
- 3) 薬剤アレルギー/過敏に関する診療 Q&A を作製し、公開する。

研究結果

「成人薬剤過敏症状への対応 Q and A」を作製し、拠点施設医師向けに公開した。

考察

本 Q and A は、診療ガイドラインなどでは言及されていないが診療上重要な内容を扱い、実臨床において有用なものとする。

A. 研究目的

背景

- 1) 薬剤アレルギーは国民の 10%以上を占める最もありふれた疾患であるが、その原因は多岐にわたり、臨床像もさまざまである。その対応において専門施設でも難渋している。

- 2) 薬剤アレルギーに関する GL や有効なマニュアルは存在しない。

目的

薬剤アレルギー症例のモデルケースを収集し（国立病院機構相模原病院自験例）、臨床現場で有益な Q and A を作成し、公表する。

## B. 研究方法

- 1) 薬剤アレルギーに関する国内外の正確かつ詳細な資料を収集する。
- 2) 薬剤アレルギー症例のモデルケースを収集する。
- 3) 薬剤アレルギー/過敏に関する診療の Q&A を作製し、公開する

(倫理面への配慮)

該当する研究に関しては、国立病院機構相模原病院倫理委員会の承認のもとで研究を行った。

## C. 研究結果

薬剤アレルギーに関する資料や文献を国内外から収集した。さらに国立病院機構相模原病院にて過去に経験された薬剤アレルギー患者の実態調査をカルテベースで行い、その結果を踏まえて「成人薬剤過敏症状への対応 Q and A」を作製した (図)。

Q and A は相模原病院のアレルギー中心拠点病院の HP 中に掲載し、全国の拠点病院医師に限定して公開している。

Q and A の具体的な内容は巻末刊行リストに記した。

図 公開された Q and A を掲載したページ

<https://sagamihara.hosp.go.jp/allergy-center/>



国立病院機構 相模原病院 アレルギー中心拠点病院	
作成元	日本アレルギー学会 (厚生労働省アレルギー情報センター事業にて作成)
形式	PowerPoint スライド 全27枚 (伊勢原スライド4枚) 容量 / 175MB
用途	管理業務や医療従事者などを対象とした研修等に活用ください。
資料	【※バズワード】※バズワードは研修動画と同じです。 アレルギー-医療従事者向け研修のための成人アレルギー-疾患対応QandA
発行元	国立病院機構相模原病院 臨床研究センター
形式	PDF
用途	<医師向け> 難い成人アレルギー-疾患患者 (もしくはそれを疑われた患者) を診療する際にご参考にしてください。



アレルギー中心拠点病院 事務局	
国立行政法人 国立病院機構 相模原病院	相模原病院
神奈川県相模原市南区程島1-1-1	個人情報保護方針
Mail : 222_allergycenter@mail.hosp.go.jp	
Tel : 042-742-8311 (FAX) (平日 9:00~17:00)	

## D. 考察

過去の症例データも踏まえ、薬剤アレルギー診療の Q and A を作製し公開した。本 Q and A は、診療ガイドラインなどでは言及されていないが診療上重要な内容を扱い、実臨床において有用なものとする。

## E. 結論

「成人薬剤過敏症状への対応 Q and A」を作製し、アレルギー疾患対策基本法の拠点施設医師に公開した。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1) Hayashi H, Fukutomi Y, Mitsui C, Kajiwara K, Watai K, Kamide Y, Nakamura Y, Hamada Y, Tomita Y, Sekiya K, Tsuburai T, Izuhara K, Wakahara K, Hashimoto N, Hasegawa Y, Taniguchi M. Omalizumab for Aspirin Hypersensitivity and Leukotriene Overproduction in Aspirin-exacerbated Respiratory Disease. A Randomized Controlled Trial. Am J Respir Crit Care Med. 2020 Jun 15;201(12):1488-1498.

### 2. 学会発表

1) 林 浩昭, 福富 友馬, 三井 千尋, 上出 庸介, 渡井 健太郎, 富田 康裕, 関谷 潔史, 森 晶夫, 谷口 正実. Omalizumab はアスピリン喘息にアスピリン(NSAIDs)耐性化

を誘導する. JSA WAO Joint Congress  
2020 (第 69 回日本アレルギー学会学術  
大会) 2020 年 9 月 17 日

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし